本庁舎等建替事業を政策形成の視点から考える

令和5（2023）年に川崎市役所本庁舎が完成し、令和7（2025）年3月には第2庁舎跡地に市役所広場がオープンして、一連のプロジェクトがついに完了しました。

本庁舎完成から1年以上が経過した今、各フロアの景色は大きく変化し、また市民の方が庁舎に親しんでいただいている場面を数多く見ることができ、大変うれしく思っています。

本庁舎等の建替にあたっては、令和元年東日本台風や新型コロナウイルス感染症等を踏まえた危機管理体制の再構築、働き方改革やDXなど社会状況の変化への対応を迫られました。本庁舎等建替事業は、単に職員が働く建物を作り替えるという事業ではなく、職員の働き方や仕事の進め方を変革し、さらには、今後の防災、賑わい、憩いなど市民に必要とされる機能を備えた庁舎を作る全庁横断型のプロジェクトだったとも言えます。

こうしたことから、今回の「政策情報かわさき」の特集テーマは「川崎市役所本庁舎等建替事業 大解剖」と題し、本庁舎等建替事業をどのように検討して、作り上げてきたのか、さらには、職員の働き方・仕事の進め方改革や行政DXについても多角的に知ることができる内容としました。本誌を通じて、本庁舎の知られざる一面を知るとともに、市民の皆さんにも本庁舎や広場をより身近に感じてもらえればと考えています。

昨年、本市は市制100周年という節目の年を迎えましたが、今後も職員が政策形成能力の向上を図るとともに、次の100年に向けて「成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち　かわさき」の実現を目指して一丸となって取組を進めていくことを期待します。

川崎市長　福田　紀彦